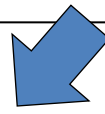


職員による自己評価

- A環境面
 - 利用定員・スペースの関係は概ね適切。
 - 職員配置は、50%が適切と考えている。
 - 業務改善は行っているが、定着しない。
 - 研修の機会は、しっかり設けられている。
- B児童への支援内容
 - 定期的なモニタリング・記録・支援の検証・改善に対する意識が希薄。記録にとどまり、改善に繋がらない。
 - プログラムの固定化はない。
- C関係機関との連携
 - 障害のない子どもと関わる機会がない。
 - 学校との情報共有は一部のりだが出来ている。
- D保護者への説明責任・信頼関係
 - 保護者への説明責任等については、概ね適切。
 - 個人情報の扱いには慎重に行っている。
 - 保護者との信頼関係は適切。
- E非常対応
 - 職員のマニュアルへの意識が高くない。
 - 避難訓練がなかなか行えず、危機感が高くない。
 - 虐待防止研修を経て、職員の意識が変わった。

保護者による評価

- A環境面
 - 活動スペースは十分に確保されている。
 - 職員配置・専門性は適切である。
 - バリアフリーについては半数が「どちらとも言えない」と回答。
- B児童への支援内容
 - サービス計画は支持されている。
 - 活動プログラムのは固定化せず工夫されているという意見が多いが、事業所の特徴から一部では固定化することを望む方もいる。
 - 他の児童との交流は1/3が「いいえ」で「必要ない」と回答する方もいる。
- C事業所からの情報発信
 - 保護者への説明・助言・支援共通理解は9割以上が「はい」。
 - コロナ禍で保護者会の実施はない。
 - 苦情については「ない」・「把握していない」。
- D非常対応
 - 約半数が「はい」と回答、「分からない」と言う回答もある。
- E満足度
 - 満足されている。



事業所内での分析

- 【共通点】
 - 活動プログラム等は保護者・職員共に適切と判断している。
 - 保護者への説明責任・信頼関係は、共に適切と判断している。
 - 非常時の対応は意識が高くない、保護者へも伝わっていない。
- 【相違点】
 - プログラムは固定化されないように意識しているが、一部保護者から「cheerS」では固定化が必要もあると回答が出ている。
 - コロナ禍のため実施できていない保護者会については、職員は一部その必要性を感じているが、保護者からは「個別を主としているので連携の必要はない」との回答がある。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- 環境面が良い。
- 活動プログラムの立案・準備・実施・振り返りと一連の流れが個々に合わせてきちんと実施できている。
- 保護者への説明責任を果たし、相互の信頼関係ができている。
- 研修を受ける機会が設けられ、全職員の意識も少しずつ高まっている。

事業所の改善点

- 「特に必要ない」と評価されているものの「障害のない子どもと関わる場」がない。
- 非常時の対応については多々課題がある中で現在は定期的な避難訓練を実施するなど改善中。
- ガイドラインの未周知。
- 保護者同士の連携には工夫と配慮が必要。

事業所の改善への取り組み

- 日々の SST の時間に避難訓練等を定期的に取り入れ、その様子をホームページやお便りで保護者の方にお知らせする。
- 保護者会については毎回テーマを提示し、必要に応じて参加が選択できるように開催を工夫する。
- 事業所での研修・勉強会の場を設け、職員の意識をさらに向上させる。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

活動プログラムについては、保護者からのご理解・評価をしていただき、職員もその評価を自信に変えて向上させていきたいと感じている。また、若い職員が多い中で、能力差も生じ始めており、その差をどのように解消していくか今後の大きな課題であると感じている。

cheerS はまもなく 4 年になるが、保護者の目や求めるものが厳しくなると思われるので、支援内容・質を必要であると考えています。「若いスタッフたち、もっと自信を持って大丈夫だよ！頑張れ！！！」